

第1回 武蔵野市歴史資料館（仮称）検討有識者会議

日 時 平成15年9月11日（木）午後6時00分～8時30分

場 所 総合体育館2階「クレア」

出席者 土屋市長、小池牧子委員、小林真理委員、中里崇亮委員、西脇康委員、
船崎尚委員、三浦展委員

1. 自己紹介

2. 市長あいさつ

【市長】武蔵野市は、昭和20年代に人口が増加し、昭和22年の6万人が昭和38年に13万人となりましたが、昭和40年以降はあまり変化がありません。

これまでに都市の基礎基盤である上下水道、ごみ、学校などの整備はすべて完了しています。このような都市基盤の整備を行うことに関しては、ほとんどの市民が賛成しますが、美術館や歴史資料館を開設することに関しては、市民の評価は分かれます。

歴史はとても大切なもので、先人が残したものを伝えていくのは大事なことだと思っています。

市制50周年までには、それを受けて歴史資料館を立ち上げようと考えていましたが、バブルの崩壊、減税などの社会状況に阻まれ、実現しておりません。

このような状況の中、多額の費用で建設してランニングコストも多くかかるような施設はできません。また、市民が1日に50人は利用するような施設でなくてはならないと思っております。

本日は、このような趣旨を踏まえ、会議室を離れてリラックスしていろいろな角度からご意見をいただければと思います。

3. 副議長の指名について

（副議長には、船崎委員が指名された）

4. 会議の公開について

（会議については、会場の制約及び自由な雰囲気の中での意見交換などから、会議録により公開する）

5. 意見交換及び提案

【委員】お金をかけずに人が集まるということでは、エコ・ミュゼがある。武蔵野市域全体を博物館と考え、既存のものをリニューアルし分館化していく。人を呼ぶキーワードとして、「市民参加」「PRと連携」「量と質」などがある。武蔵野市の特徴として、長年平和問題に関わってきているので、この点を打ち出してもよいのではないかと。歴史資料館の役割は、市域全体博物館の拠点（発信と収容の拠点）で、人ともものが集められる場所であること。武蔵野市は、市民の趣向レベルが高い。おしゃれなものが必要。リピーターの確保にはエンターテインメント性が不可欠。オリジナルグッズ販売など、商売心が必要。人は追体験を好むことから1965年を軸とすることが考えられる。データをアーカイブ化したり、早期に洋紙の劣化を防ぐ処理（ラミネーション加工）をすることが必要。

【委員】「武蔵野版プロジェクトX」ともいうべきテーマで歴史を再現した企画なら人は期待するだろう。オーラルヒストリーが重要であり、語り部として話したい人は多い。歴史資料館などの名称ではなく「懐かし館」など人が集まるネーミングが大事。

【委員】古い家などを残していきたい。写真などで残してはいるが「イスのコトブキ」なども移転し、古くから続いているものがなくなっている。武蔵野市は歩いてちょうどよい街。

【委員】歴史資料館には、文書に加えて民俗資料を置くなど、郷土資料館的要素を含めた方がよい。物により郷土の調査を始めても、調査を深めていくと最終的には文書にたどり着くように両者の関連は深い。

【市長】民俗資料を含んでも、従来のような資料館にはしたくない。武蔵野市で民俗資料を展示したとしても、府中の郷土博物館の縮小版にはならない展開としたい。企画が大切であり、文化会館は正月に甘酒を配るなどの企画で、5年間チケット完売の実績がある。

【委員】まちづくりの成功例として三重の赤福がある。武蔵野市民はここが好きで住んでいる人が多い。どんなものがここにあるかが知りたい。

【委員】映画などに使われるような家屋もまだ残っている。町並み条例などで守るのはどうか。土屋恂氏はJRと再開発を撮り続けている。資料として貴重。保存などは、早くしないといけない。

【市長】日本は木と紙の文化。残らないというハンディがある。近世のものなどはほとんど保存されていない。古くなったものは廃棄されてしまっている。

6. 建設予定地などについて

【市長】現在の中央図書館のそば（旧中央図書館）を予定している。延べ床面積は2,000㎡程度のイニシャルコスト・ランニングコストもそこそこのもので、フルタイム職員を3~4人、協力者をコーディネートする必要があると思う。

旧市庁舎を解体したときの資料が残っているので、これを生かして昔の風合いを残す建物にしてもよいと思う。

【委員】武蔵野市が何を持っているのか、何が残っているのかなど、町並みを見て回りたい。

【委員】グルメマップなどを作成するのはどうか。

【市長】いろいろなものを見て、考えていただきたい。